

江戸時代の手紙に記された崩し字は専用ソフトでも一筋縄には解読できない

江戸時代に記された文書を訳したいと考え、昨日一日その文章とにらめっこしましたが、その判読の難しいこと。とりあえずは、この手紙がいつしたためられたものか。1820~60年の間であることは確かなのですが、これがいつなのか？

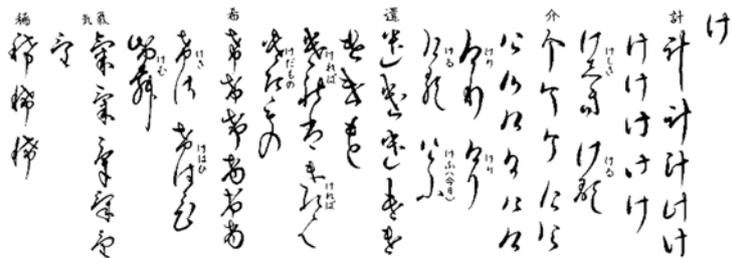


まずは奈良文化財研究所と東京大学史料編纂所が共同で開発した「MOJIZO」

(<https://mojizo.nabunken.go.jp/>) の実力を試してみることにしました。

簡単どころから、ひらがなの「け」の崩し字を例にその実力を試してみることにしました。

「け」だけでも、くずし字解読辞典（児玉孝多、昭和54年）では右のように実に多くの崩し字があてられていることがわかります。この中より5文字を適当に選び、MOJIZOでの



解析を試みました。解析結果として可能性のある元漢字候補18個を示してくれますが、選んだ5文字については、その候補漢字の中に正解の漢字はありませんでした。古文書を読み下す難しさが実感されました。

右上に記したのは干支で示された年代です。普通ならば、たとえば丙午（ひのえうま）のように2文字で干支を示すところですが、右上の干支は4文字となっています。1字目は庚（かのえ）、残る3文字の中で干支を表しそうなものは一番下の文字です。この文字が十二支のうちのどの文字であるかを、上で示したくずし字読解辞典で調べますと、未（ひつじ）に可能性があることが分かりました。従いまして、この文字つづりは、庚御閏未となります。

そこで、次に確認すべきは



しかしながら右図からわかりますように、庚未（かのえひつじ）は存在しません。未に代わる可能性のある干支は寅（とら）ではないかと考えています。

干支					
1	2	3	4	5	6
甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳
7	8	9	10	11	12
庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥
13	14	15	16	17	18
丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳
19	20	21	22	23	24
壬午	癸未	甲申	乙酉	丙戌	丁亥
25	26	27	28	29	30
戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳
31	32	33	34	35	36
甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥
37	38	39	40	41	42
庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳
43	44	45	46	47	48
丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥
49	50	51	52	53	54
壬子	癸丑	甲寅	乙卯	丙辰	丁巳
55	56	57	58	59	60
戊午	己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥
十干・十二支					

そこで次に確認すべきは、庚寅（かのえとら）が西暦何年で、この年に閏月があるか否かです。干支は 60 年で一巡し、庚寅の年は、1770 年、1830 年、1890 年で、条件に合う年は 1830 年です。この年に閏月があるかは「旧暦の閏月のあった年をさかのぼって調べた」https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10108624135で、確かに閏の年であることを確認しました。

従って、可能性としては、本書状のかわされた年は、1830 年で、この年は閏月を持った年であった、とほぼ確認されました。

いよいよ本文の解読に、と言いたいところですが、こちらは一筋縄ではいきそうもありません。読める漢字もあるのですが、ひらがなはくずしがあり、さらに続け字となっているためにその解読は私にとってはなかなかハードルの高いものです。

古文書解読自習プログラム（北海道立文書館）なるサイトを見つけたので、まずはこの辺りから始めるのが良いのかもしれない。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/d/jishuupuroguramu.htm>

（補足メモ）

読み出したい年号は、最初の目算では例えば、「丙午閏年」のような並びではないかと考えた。しかしながら、2 文字目の干支に相当する漢字の崩し字が見当たらず、この文字はどう見ても「御」の崩し字にしか見えなかった。そうすると、年号を示す 2 文字目はどこかとなると、それは 4 文字目ということになった。そしてこの 4 文字目を力づくで推定すると、それは「寅」の崩し字である。いささか強引ではあるが、これが現時点でできる私の最良である。